

菊池川における水辺空間の変遷に関する研究

熊本大学 学生会員 ○小川連太郎 熊本大学 正会員 田中尚人

1. はじめに

(1) 背景

現代の河川空間では治水、利水、環境保全を方針とした整備がなされている。治水や用途に合った水辺の利用が図られている反面、画一的な河川整備により、これまで水辺に存在していた公有地や史跡等の地域固有の文化・生業跡の消失などが考えられる。また、これまで存在した水辺空間での利水活動が、河川空間の治水整備により消失した可能性があることも考えられ、これまで築いた人と水辺の関係性を整理し、後世に残していく必要がある。

(2) 目的・新規性

既往研究では、特定の産業に着目し水辺空間の変遷から人と水辺の関係を明らかにしたもの¹⁾などがあるものの、船着場空間構造の変遷をもとに人と水辺の関係を明らかにするものは少ない。

以上のことより、本研究では、水辺空間の中でも特に船着場跡に着目し、歴史ある菊池川において、文献調査・ヒアリング調査をもとに、都市と船着場空間の変遷の分析を行い、空間の変遷から治水・利水に関する人と水辺の関係性を明らかにする。

本研究の目的は、菊池川における船着場跡の変遷を空間分析することで、治水・利水に関する人と川との関係性を明らかにすることである。

2. 菊池川における暮らしの変遷

本章では、菊池川の概要の整理と研究対象地の抽出を行い、3 対象地における水辺空間の暮らしの変遷を明らかにした。

(1) 菊池川の概要

菊池川は、熊本県北部の一級河川であり、阿蘇市から始まり迫間川、合志川、岩野川などと合流を重ね、菊鹿盆地や玉名平野を通り、有明海に注がれる。菊池川流域には、古くから稲作に関する遺跡、文化が多数残り、平成 29 年には流域として日本遺産に認定された。

(2) 菊池川舟運の概要

菊池川流域では九州北部から持たされた文化や出土品等の分布から舟運が古くから行われてきた²⁾。藩政期

から明治期初頭までは最も舟運が栄えており、主な用途は米による納税や地方への貿易などであった。当時の菊池川に関する様子は菊池川全図³⁾から読み取ることができる。明治期では主要産物の米及び材木の輸送などに舟運が活用されていたが、陸上交通の発達により大正時代に入り衰退していった。



図-1 菊池川全図

(3) 対象地概要

菊池川全図²⁾をもとに船着場の位置を地図上に示し、対象地とする船着場跡の抽出を行った(図-2)。

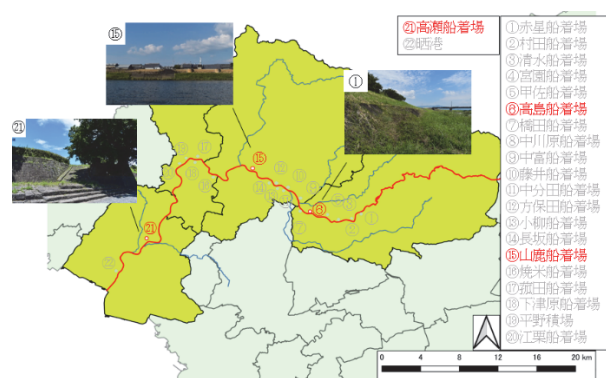


図-2 抽出された船着場跡

a) 七城町高島船着場周辺; 菊池市で最も栄えた隈府から多くの物資が送られ、高瀬までの船着場のなかで重要な船着場の一つであった。古くから隈府・植木間の往還路ができるなど、交通の便が良く、明治期には舟運の輸送と合わせて発展した。周辺には田畑が多く、菊池の中心市街地である隈府から離れている。

b) 山鹿市山鹿船着場周辺; 古くから豊前街道とともに栄え、旧山鹿橋のたもとから上手にかけて船着場があっ

た．交通機関の発達によって舟運は衰微し，大正10年の鹿本鉄道線の開通後著しく衰退した．船着場周辺は災害の常襲地帯であり，昭和30年代，昭和50年代に大きな水害が発生しているため，水害に対する河川整備が多く行われている．

c)玉名市高瀬船着場周辺；近世まで高瀬町は，高瀬御蔵とともに発展し，商業活動が活発に展開されており，舟運の最盛期は1800年初期であるとされている．1891年に九州鉄道玉名駅が設置され，玉名市の中心市街地として発展した．高瀬船着場跡は玉名市の史跡として指定されており，河川敷では水辺空間の整備が行われている．

3. 船着場空間の変遷

本章では，3つの対象地における河川整備、地形の変遷を整理し，図化することで船着場空間構成の変化を明らかにした．

(1) 船着場空間の変遷

かつて船着場があったとされる場を船着場空間と置き，その空間構成の変遷を整理する．文献や河川改修工事の記録をもとに，平面図・断面図として変遷を明らかにした．

(2) 船着場空間周辺の河川構造

船着場跡の改修等でおきた空間的な変遷をもとに，河床勾配やHWLなどの河川構造を整理した．

(3) 船着場空間の利用

船着場空間を介した水辺の利用や，治水・利水上での周囲の住民との関係性を明らかにするため，対象地

周辺の住民にヒアリング調査を行った船着場空間を介した水辺との利用や，治水・利水上での周囲の住民との関係性を明らかにする．

4. 水辺空間の分析

船着場跡が地域に与える作用と，対象地ごとの関連性，特性を分析する．

(1) 船着場跡周辺の空間構成の比較分析

上流部・中流部・下流部での船着場の空間構成の比較（表-1）を行い，分析する．

(2) 周辺空間への作用の分析

接続空間として生活空間と水辺空間に及ぼす作用について作成した図を用いて分析した．

(3) 治水・利水に関する人と川との関係性の考察

空間構成の変遷とヒアリング調査による水辺空間の認識の変化から，治水・利水に関する人と水辺との関係性を考察する．

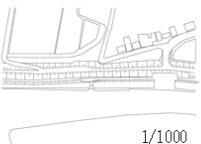
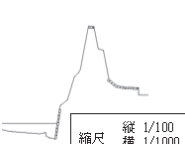
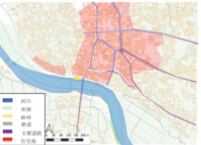
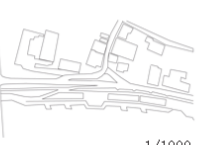
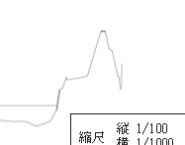
5. おわりに

菊池川における船着場跡が地域に与える作用，人と水辺の関係性など発表会にて詳細な分析結果を報告する．

参考文献

- 1) 中村ら；木材業に着目した名古屋・堀川における水辺空間とその利用の変遷に関する研究，土木計画学DI Vol. 74, 2018年
- 2) 熊本県教育委員会；熊本県歴史の道調査菊池川舟運，1987年
- 3) 建設省九州地方建設局 菊池川工事事務所；菊池川の今と昔，1998年

表-1 各対象地の空間構成の比較

	都市空間			船着場空間	
	1940年代	1980年代	2000年代	平面図	断面図
高島				 1/1000	 縮尺 縦 1/100 横 1/1000
山鹿				 1/1000	 縮尺 縦 1/100 横 1/1000
高瀬				 1/1000	 縮尺 縦 1/100 横 1/1000